

特集紙面

# 地域を支え、共に歩む LINKAI横浜金沢

金沢区臨海部には1000社を超える企業・事業所が集積し、国内でも有数の産業団地を形成しています。この特集紙面では、その取り組みや魅力を紹介します。



「ものづくり」の企業が集積するLINKAI横浜金沢の横のつながりを生かすと何ができるのか。その可能性を表現しているのが、ものづくり体験イベントを運営するNPO法人「Aozora Factory」だ。企業のみならず、大学、行政、地域住民が連携し、地域コミュニティを創出し、新たな価値を生み出している。

## ものづくり×つながりで 新たな価値を創出

Aozora Factory

2016年10月にLINKAI横浜金沢内の有志企業によって発足したAozora Factory。代表の本多竜太さんは「この地域は全国的に見ても有数の産業団地ですが、その割には外に知られていない。この規模感と魅力を伝えていくたいと思って」と話す。

「素晴らしい技術を持つ企業や魅力のある人たちと一緒に地域を盛り上げる『何か』がしたい」と、そこでたどり着いたのが、「ものづくりの魅力が体感できるワーク

ショップ」「ことづくり」だつた。近年は金沢区役所に隣接する泥亀公園で開催。昨年11月のAozora Factoryには、企業や大学、地域団体も出展し、1600人を超える来場者があった。各ブースが用意したキットがほぼ無くなる盛況ぶりだった。「出展が企業だけだと地域の魅力発信も一方通行になりがち。地域団体を巻き込み、全体で盛り上げられれば」18年にNPO法人化。

現在、運営に携わるのは大学含め約150名だ。50代が中心で、若手が活躍できるプラットフォームとしても、発展が期待される。「いろんな分野の人々が参画しているから



こそ、面白いことが作り上げられる」と本多さんは語る。

出会いの場としても同団体は「出会いの場」としても機能。昨年

はイベント後に初めて「放課後Aozora Factory」を開催し、企業間の交流を図った。企業、行政、学生との間で芽生えたつながりが、仕事のつながりに発展することもある。「卒業した学生が、出展する立場になって同じフレームに立つことも。さらに雇用につながるなど、新しい動きがでている」と笑顔で話した。